

令和3年度 第1回豊後高田市総合教育会議議事録

日時 令和4年3月18日(金) 14:58 開会

場所 豊後高田市役所高田庁舎3階
301会議室

出席者 市長 佐々木 敏夫
教育委員会
教育長 河野 潔
委員 大嶽 由美子
委員 高井 郁郎
委員 宮崎 みゆき
事務局
市総務課長 佐藤 之則
教育総務課長 植田 克己
学校教育課長 衛藤 恭子
文化財室長 板井 浩
教育総務課総括主幹兼総務管財係長

近藤 教夫

市総務課参事兼総務法規係長

近藤 直樹

報道関係 大分合同新聞豊後高田支局長

大崎 優志

大分建設新聞社 記者

佐藤 万実

企画情報課広報担当

市ケーブルネットワーク担当

=====

1. 開会

○市総務課長 佐藤 之則

皆さんこんにちは総務課長の佐藤でございます。本日、会議の進行させていただきます。よろしくお願ひします。本日の出席者は教育委員さんで大嶽委員さん、高井委員さん、宮崎委員さん、それに佐々木市長と河野教育長でございます。松成委員さんに関しては、所用により欠席となっておりますのでご了承をお願いします。

只今から令和3年度第1回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さん、ご了承頂きたいと思いますが、この会議は法で原則公開することとな

っております。法の趣旨に沿って公開で開催させていただきます会議録につきましてもホームページで公開させていただきますのでご了承願ひします。

それでは最初に佐々木長よりご挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

○市長 佐々木 敏夫

本日は、たいへんお忙しい中、令和3年度の総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃から、豊後高田市の教育のまちづくりに関し、ご理解とご協力をいただいていることに、衷心より感謝を申し上げます。

さて、本市では、移住・定住対策や子育て支援による人口増施策に取り組んでおりますが、その成果が実をむすび、今年で10回目を迎えた宝島社の「住みたい田舎」ベストランキングでは、人口規模「1万人以上3万人未満のまち」の区分の中で、「若者世代」「子育て世代」「シニア世代」の3部門全てにおいて、全国初となる2年連続で第1位を独占し、10年連続でベスト3入りする快挙を達成することが出来たところでございます。

また、2月16日の大分合同新聞では、大分県が推計した昨年10月1日時点の県内の人口は111万3,749人となっており、戦後最少を記録するなど、少子高齢化による人口減少が加速している状況にあります。

県内では、大分市、豊後高田市、日出町(ひじまち)の2市1町のみが、転入者が転出者を上回る社会増の状況となっております。県内で8年連続しての社会増は、本市のみでございます。

令和2年の国勢調査の状況をみましても、子育て世代の「若年女性」の増加が県内で唯一、プラスとなっております。本市の「移住・定住対策」や「教育のまちづくり」、「子育て支援」の効果が顕著に表れた結果は、大変、嬉しく思っているところであります。

一方、教育現場におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響が出ております。

今回のオミクロン株は、感染力が非常に高く、ワクチン接種をしていない子ども達へ感染が広がる「家族感染」を私は大変、心配しておりました。

感染者が確認された小学校、幼稚園等においては、直ちに臨時休校や休園の措置をとり、対象のすべての児童と教職員に、抗原検査キットを配布して、感染防止のため登校・登園前に各家庭で検査をお願いしたところであります。

その結果、無症状の陽性者を適切に発見することができ、子ども達への感染の連鎖を未然に防ぐことができました。

いまだ先の見えない戦いではありますが、関係者一丸となって創意工夫し、教育活動を充実させていかなければならないと思っております。

また、令和4年度教育関係予算に関しましても、本日閉会いたしました議会で承認を頂いたところでございます。

予算の主なものにつきましては、新規事業として、高田高校の学力、魅力アップを目的とした、公設民営塾を開設する、「高校生のための学びの21世紀塾推進事業費」のほか、桂陽小学校体育館大規模改修や香々地中学校屋上防水工事など学校施設の長寿命化を図る事業等でございます。

学校や地域、教職員を取り巻く環境は近年、大きく変化してきております。本日は、第2期豊後高田市教育大綱の策定をはじめ、教育に関する様々な取り組みについて議論して頂き、豊後高田市が力を入れる「教育のまちづくり」を更に進めていきたいと考えております。

今後とも、皆様から、お力添えをいただきながら、未来を担う子ども達の教育に、全力で取り組んでまいりますので、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

3. 教育長あいさつ

○市総務課長 佐藤 之則

それでは、続きまして河野教育長からご挨拶を申し上げます。

○教育長 河野 潔

では、改めまして皆さんこんにちは、私から挨拶

と言うよりはお礼を一言述べさせていただきます。

まずは、いつもながら市長さんをはじめ教育委員の皆さんには本市の教育行政の大きな力添えをいただいていることに対してお礼を申し上げます。

そして、前回の総合教育会議からやがて1年が経過しようとしている訳です。その間、市の教育行政につきまして、いろいろ課題の度に皆さんには、的確なご指導、ご助言をいただきまして何とか、一歩二歩前に進んでいる。そういう実感を感じているところです。皆さんのお陰です。学校教育も、そして社会教育も、さらには文化財等々につきまして、すべてにわたって教育行政全般にいろいろな、ご支援を賜りました。本当に心から感謝をしております。

先ほど市長からコロナウイルス禍の中で、どう対決するかというか、対策を講じてきたかについては、詳しく述べていただきましたが、まさに未知との闘い、現在もそのさなかにあるわけでありますけれども、これからもしっかりと気を緩めることなく、このコロナウイルス禍の中でも学びを止めない、そのコロナウイルスとしっかりと向き合いながら、そして教育行政も半歩でも一歩でも前に進めていきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともお力添えをお願いをいたしまして、お礼に変えさせていただきます。また、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

4. 協議・調整事項

○市総務課長 佐藤 之則

それでは、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱の第2条第3項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっております。

佐々木市長、よろしく申し上げます。

○市長 佐々木 敏夫

それでは、議長を仰せつかりましたので、議事を進めてまいりたいと思います。

早速ですが、7つの項目について、協議・調整をお願いします。

まず、1番目の「豊後高田市教育大綱について」事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長 植田 克己

皆さんこんにちは、教育総務課長の植田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。座って説明をさせていただきますと思います。

それでは私の方から教育大綱の策定についてご説明いたします。

お配りの資料の2ページをご覧ください。教育大綱は平成26年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、地方公共団体の長は教育学術及び文化の振興に関する総合的な政策の大綱を定め、総合教育会議において協議するものとされております。

この大綱は総合的な政策について目標や政策の根本を定めるものでありまして、概ね5年を目途に策定をするものでございます。

本市では第1期の大綱を平成28年から平成32年、令和2年までの5日年間を期間として定めておりましたので、今回改定を行い令和7年度までの5日年間を計画期間としたいと考えているところでございます。

次に基本理念についてでございますが、第1期計画では、明日を担う人づくりと言う基本理念としておりましたが、令和2年に市が目指す将来像を描いた長期的なまちづくりの全体計画である第二次総合計画が改定され、総合戦略まち・ひと・しごと活力創生プランが一本化されたことに伴いまして、その大目標と整合性を持たせ、“地域の活力は人”であるとの考えを教育大綱の基本に据え重点プロジェクトとして推進して参りたいと考えております。

そのため2期計画では基本理念を「この街に確かな未来を、地域の活力は人」とさせていただいてるところでございます。

次にこの基本理念に基づきまして、1から6まで6つの基本方針を掲げさせていただいております。基本的には第1期の教育大綱をもとに総合計画との整合性を持たせた方針とさせていただいております。

1点目が、知徳体を総合的に育む学校教育の推進。これは総合計画、教育大綱1期計画と同様でございますが、知・徳・体を総合的に育む教育内容の創造、連携のある指導支援、主体的な学びを提供する学びの21世紀塾に取り組み、基礎基本的な知識に加え、技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成等を図

って参りたいと考えております。

2点目が、society5.0の社会を生き抜く力の育成。

1期計画では、次代の変化に対応したグローバル社会を生き抜く力の育成、というタイトルにさせていただいておりましたが、今般国において、AI技術等の発達により、society5.0に向けて取り組むべき政策が示されまして、その中で今後求められる人材像、学びのあり方について、その方向性が示された事から、総合計画と併せてこのタイトルに変更させていただいたところでございます。

3点目、地域力を生かした安心安全な学校づくりの推進。

これも同様に総合計画1期計画と合わせさせていただいております。

教育課題に関する組織的な取り組みを進め地域力を生かした学校作りを行ってまいりたいと考えております。

4点目、変化の激しい移次代を生き抜く、障害を通じた学びの支援。

これは、1期計画から変更はございませんが、図書館や公民館などの社会教育施設において、学びの場を提供し地域活動に活かす体制の充実を推進してまいりたいと考えております。

5点目、文化遺産の継承と芸術文化活動の推進。

1期計画から若干表現は変えておりますけれども、基本的には本市にある文化遺産を引き続き保護、継承に努めるとともに、古くからの文化の継承と市民による新たな芸術文化活動を推進してまいりたいと考えております。

6点目、市民総参加の生涯スポーツ社会の実現。

1期計画からの大きな変更はございませんが、市のスポーツ推進計画と整合性を持たせ市民誰もが、スポーツを通じてより健康的な生活が送れるよう推進して参りたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

この問題について、何かご意見はございますか。よろしいですか？

では、その方針に基づいて進めてまいります。

それでは、次に移らせていただきます。

2番目の「児童・生徒の学力、体力について」、事務局から、説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

こんにちは、学校教育課長の衛藤です。どうぞよろしく願いをいたします。

資料は5ページをご覧ください。

この表の説明の前に教育大綱の中でもありましたが、教育の在り方が大きく変わってきております。令和2年度学習指導要領が改定され小学校が全面实施となりました。今年度、令和3年度は中学校が全面实施となっています。

その中で得た知識や技能の量だけではなく、その知識や技能を活用していかに課題を解決していくのか、そして、その学び方、あるいは学びに向かう力、そういった資質能力を子ども達に身に付けさせるというように転換をされてきております。

そういった教育の方向を踏まえた各種学力調査の問題等になっていることを冒頭お伝えしておきます。

令和3年度におきましては、コロナ禍の影響を受けず全国調査、県の調査、市の調査ともに実施をすることが出来ました。

全ての学力調査の目的は、3点ございます。

1つ目は、子どもたちの学力や学習状況を客観的に把握分析し、これまでの教育施策、また、各学校で授業の成果と課題を検証しその改善を図っていくということ。

2点目に教育に関する継続的な検証サイクルを確立すること。

そして、3点目、何よりも子どもたち自身が、自分の学力を客観的に把握して、それまでの学習への取組みを見直し次の目標を定めるといったことに目的を置いております。

それでは、本年度の調査結果を踏まえて、少しご説明をしたいと思います。

表をご覧ください。

豊後高田市の中で黄色く色付けをしておりますのは、全国の値を上回ったもの、あるいは、目標値をクリアしたものを色分けしております。

全国調査は、5月27日に実施され、小学校6年生、中学校3年生で国語と算数、国語と数学で実施

されました。

どの教科におきましても、県や国を上回る結果になっております。

小学校6年生の算数が、県、全国に比べて1ポイント下回っておりますが、一番下の豊後高田市学力定着状況調査をご覧ください。

この5月の結果を踏まえて、授業改善等を進める中で12月に実施した小学校6年生の値をご覧ください。

算数は、目標値の55.9を8.7ポイント上回る64.6ということで、全国調査を踏まえて、指導の改善ですとか子ども達の学びの改善をする中で一定程度の学力の定着を図ってきているというふうに捉えております。

同じく2の大分県学力定着状況調査の表、中ほどをご覧ください。

こちらは、4月20日に実施をされまして、小学校5年生と中学校2年生、小学生につきましては、国語、算数、理科、中学生につきましては、5教科全てでの調査が行われております。

同じように表を見ますと、小学校5年生の算数と理科で、この数字は偏差値で出しておりますので50を超えることを一つの目安としております。

そうしてみたと、小学校5年生の理科が活用の方で、0.4ポイント偏差値50を下回っております。

このことを踏まえて、授業改善等をしていきまして、12月実施の小学校5年生の理科の部分をご覧くださいになって頂きたいのですが、目標値よりも6ポイント上回るということで、こちらも結果を踏まえた授業改善によって学力の定着を図られてきているのではないかと見ております。

同じく中段の中学校2年生におきましては、英語が知識活用とも偏差値50に届いておりません。

英語につきましては、全市的に力をつけていくべき教科として、今年度も重点的に授業改善、それから生徒の学習の方法等について指導してまいりました。

12月の結果では、目標値を1.3ポイント上回っておりますが、まだまだこちらについては、しっかりと取り組んでいくべき課題があると捉えております。

小学校3年生からの英語活動、小学校5, 6年生の英語の教科化等で小学校英語の授業もしっかりと行うことが求められております。小中連携した取組みを進める中で、次年度に向けて更に高めていきたいと考えております。

つきまして、6ページ、7ページをご覧ください。

これらは、全国体力・運動能力調査の結果です。昨年度は、コロナ禍で体力調査は実施することが出来ませんでした。

今年度は、行うことが出来ましたが、全国、全県の様子を見ましても若干コロナ禍の影響を受け過去の数字より体力の低下が見て取れるところもありますけれども、この調査についてご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、6ページは、小学校です。小学校は、まず表の見方としましては、緑色の部分が大分県の結果です。青色の部分、豊後高田市になります。

赤の横線が全国の数値ということで見ていただければと思っております。

今年度、新聞報道等でもありましたが、大分県全体の学力結果は非常に高く出ております。特に小学校の男子につきましては、全国1位と大分県がそういった数値になっております。その中でも一番右が体力の合計点になっているのですが、大分県が53.5ポイントに対し、豊後高田市の子どもは、56.7ポイントと3.2ポイント上回っております。

県が非常に高い状況であるのに、豊後高田市の子ども達は、それを上回った状況であります。

ただ、上体越しは県より若干低いということで、結果を見ております。

それからその下は女子になります。

女子は、大分県全体が全国2位という結果でありました。

同じように右端の体力合計点を見ていただきますと、女子の方も県よりは、0.7ポイント上回る結果になっており、上体越しが若干低いということでもありますので、今、各校では上体お越しの力を高める取組みを進めているところです。

7ページをご覧ください。

こちらは中学校になります。

中学校は、大分県全体が全国で男子が2位、女子

が、5位でございました。

豊後高田市も検討はしているのですが、やはりコロナ禍で体育の授業がなかなか実施しづらかった部分ですとか、部活動の制限がかなりかかったこともございました。体力全体の合計点をみますと全国は大きく上回っております。が、県に比べると0.8ポイントほど下回っている状況です。

種目別では、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とびが県より低い数字となっております。

特に長座体前屈と反復横跳びについては、下回っておりますのでこちらの力を伸ばしていく必要があると取り組んでいるところです。

下の表をご覧ください。

中学校女子です。

こちらは、体力合計点で、マイナス1.5ポイント県を下回っておりますが、中学校女子は、豊後高田の推移を見ますと、非常に高くなりつつあります。女子生徒の運動好きの数値が高まっております。今年度この調査の対象となった中学生女子は、92%の生徒が、運動が好きと答えています。例年90%を超えることはなくてですね、運動が好きということは、今後体力が伸びていく大きな要因となっていきますので、これからの期待をしたいと思っております。

不足している力は、男子と重なりますが、反復横跳び、50m走、立ち幅跳びに課題が残っております。

今、全ての学校で1校1実践ということで、例えば休み時間に握力計を一人何回使いましょう、ですとか全校で5分の時間を決めて柔軟性を高める運動をしたりとか、それぞれの学校の子どもにあった1校1実践という形での継続した取組みも行っております。

それから小学生については、徒歩通学ですとか外遊びの推進を行うことで、体を動かす取組みも進めております。

何においても体育の授業を改善することで技能偏重ではなく、運動することの楽しさですとか自分の体をうまく使うコツを身に付けるですとか、比較対象を自分の中に置くことで、自己目標を設定してそれをクリアすることを目指すような形で意欲付けをしてきておりますので、更にこの力は高めていきたいと思っております。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

それでは、この問題について何かありませんか。全ての項目をやって後でそれぞれのご意見を聞くという方向にしましょうか？それともこの問題は、この問題で行うとか、事務局どうしますか。

○事務局

個別にお願いします。

○市長 佐々木 敏夫

次に行きますが、最終的に時間をとっておりますので意見をそれぞれいただいてもよいかと思えます。

この問題の説明についてよろしいですか。

次に移らせていただきます。

3番目の「学校等における新型コロナウイルス感染症への対応について」事務局から、説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

それでは資料の9ページをお開きになってください。令和3年度も新型コロナウイルス感染症への対応が続いてきております。

大きく教育活動を制限することが求められておりますが、基本方針としまして、まずは、子どもの命と健康を守ることを第一義とする、そのうえで学びを止めないためにどのように教育活動を工夫していけばいいのか、ということを考えて取り組んでいる一年であります。

創意工夫については、教職員だけではなく、子ども達も参画をして、どうすればいいのか、あるいは、保護者や地域の方々、なかなか一堂に会して話し合うのは難しいですけれども、知恵を絞り、出し合いながら進めているところです。

感染防止対策の徹底としましては、周知のとおり4点について何度も何度も繰り返し学校にもお伝えする中で徹底をしてきております。

今ですね、陽性者が出て学校でどういう行動をしましたか？ということで、保健部の方から調査依頼があります。

ですが、学校の活動で濃厚接触にあたるような活動をされていない。ということ、感染対策が、徹底できているような、そういったことで食い止められ

ているのかと感じております。

しかしながら感染拡大をした場合には、市長のご挨拶にもございましたが、臨時休校を行うことで感染の拡大を短期で食い止めるということに努めてまいりました。

現在、のべ13校、この臨時休校の対応を幼稚園、小学校で行いました。

教育活動の制限については、部活動の中止、時間制限、今も1時間での練習を基本とするような取組みをしております。

学びの21世紀塾につきましては、残念ながら1月最初以降休講のまま、今年度は終えざるを得ませんでした。

そして、保護者を含む外部の来校を控えていただきました。

年度末は、保護者会ですとか学習発表会ですとか子ども達の学習の成果を一堂に会してみ、評価をするような場が大事にされてきましたが、こちらも感染拡大を防ぐということを優先してオンラインで行ったり、紙でお示しする中で、拡大が広がっているときには対応してきております。

令和3年度の卒業式につきましては、中学校はもう終わっていますが、今後実施される小学校、幼稚園につきましては、来賓の方の参加は控えていただき、参加人数や時間も縮小した形で行うように計画をしております。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございました。説明をいただきましたが、ご意見、ご質問等ありませんか。

○委員 大嶽 由美子

市長のご挨拶にもありましたが、新型コロナウイルスの対策というものは、もう2年間になります、本当に大変だったとおもいます。市の方も色々な取組みをしていただいて、コロナ禍でも最小限でとどめているのかというふうに感謝しています。

私たちも残念ながら、教育委員としても学校に伺うことが出来ずに1年が経とうとしています。学校の様子を知らないまま、今日は参加して申し訳ないなどという気持ちなんですけど、早く感染が止まってくれたらいいなと思います。

市長さんも同じと思いますが、子ども達の様子を

ゆっくりご覧になれる日がくればいいなと思っております。

○委員 宮崎 みゆき

いつ誰がかかってもおかしくないような感染リスクをもっていると思います。感染防止対策させていただいており、ケーブルテレビで見る子どもたちは元気で過ごしていることに安心をしております。

○委員 高井 郁郎

特にありません。

○市長 佐々木 敏夫

コロナの対策ですね、教育委員会が非常に斬新な取組みを、議会でも高田と臼杵が抗原検査センターを持ってないという指摘をいただきましたが、今のコロナ対策で、感染予防のために、子どもに発熱や症状のない子どもを検査センターで無料であるからということで、保護者が、仕事を休んで子どもを連れて行くというのは、まず10%も、感染すれば別ですが、未然防止のために行くことは、非常に少ない。そういう意味では、高田は、成人式の時に抗原検査セットを対象者に2セットを送って、出席する判断をするとき、抗原検査キットを使っただき、大丈夫といっても、会場に行く前、朝に抗原検査キットを使って確認して、出席するという、そういう意味では、成人式を令和3年生まれと4年生まれを2回行いましたが、コロナの問題は出なかった。

今も学校側が、対象クラス全員に検査キットを渡し、コロナ予備部軍を洗い出すということで、無症患者3名を発見できて感染が拡大しなかった。今、現在3,500個買ってたが、卒業式に使うため足らなくなったので、市単独で1,000キット追加して、全部で4,500キットを準備して消化するようにしております。

このコロナは、どこで発生するか我々も想像がつかないし、発生したらすぐ様対応するという、教育委員会の迅速な対応に一定の効果があり、香々地でもクラスターが発生しておりますし、どこから来たのかいまだに想定がつかない、厳しい状況下にあります。

皆様方に力をお借りしたいと思います。

今の本市の対応は、全国的にみても先手、先手で対応してきており、全国トップクラスを行っているのではないかと、自負はしています。

コロナがゼロが一番いいので子ども達。

実は、孫が4人、嫁もコロナに感染しまして、宇佐の保育園で先生方や子ども達、保護者会もあって、初めに子どもと嫁がかかり、2日後に残る孫2人がかかった。今はやっと回復しましたが、園側の自覚とか色々な意味で、まだまだ手を差し伸べることが出来るのかなと思っております。

余談なことでしたが・・・

では、次にいかさせていただきます。

4番目は「GIGAスクール構想の実現に向けた取組みについて」事務局から、説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

それでは、資料の11ページをご覧ください。

令和3年度豊後高田市 ICT 活用事業についてということで、ここ1、2年で今までなかったような光景が学校の中に広がっています。

一人一台端末が整備をされて本当に小学校1年生から中学校3年生までタブレット端末を文房具のように使いこなす、という時代が訪れて来ているのを実感しています。

当初、教職員向けの研修や子ども達がきちんとマナーを守って使えるのか、色々な心配はありましたが、それでも教育委員会の方針としましては、やりながら課題が出ればその都度解決をするということで、一歩先を進めていく方針で進めてまいりました。資料に記載しておりますが、重点目標としましては、これからの時代を生きる子ども達に必要な資質能力を育成するためにこのICTの活用をするのだということ。

1つ目は、「主体的・対話的で深い学び」の実現。

2点目は、情報モラル教育と両輪で今の時代に対応した情報教育を行っていくこと。

3点目に家庭の協力を得ながら、学校の学習と家庭学習とタブレット端末を使うことで、より効果的に進めていく。現在は、ドリルパークという学習ソフトを使って復習をする場合と、ロイロノートというアプリを使って予習に近い形で学習する方法とそういったところに取り組みを始めているところでは。

4点目に災害等の非常時における学びの継続ということで、これが今まさに臨時休校をすることに

なった学校に関しては、毎日タブレット端末を持ち帰るようにしていますので、その前日、その日の夜、明日休校ですと言われても、家にタブレット端末がありますので、その次の日から、オンラインで子ども達の健康観察、やはりこれは、教職員からも実際に子どもの顔が見れるのでとてもいいと、子ども達も電話で先生と話すのもあるんですが、先生や他の子どもの顔をみながら、1日のうち数時間過ごせるのはとても良い。というふうに聞いております。

オンラインでの授業も行っておりますが、毎時関することはいろんな意味で弊害もありますので、効果的なやり方を今やっているところです。

5点目に個々の配慮が必要な児童生徒への支援ということで、特別支援を必要とする子どもたちにとっては、非常に視覚的なアピールですとか聴覚的にアピールしてこれますので、学びに向かう意欲が高まっていると聞いております。

また、不登校傾向の児童生徒に対しても自宅での学習を進めたり、その子が希望する時には、家と学校との授業をつなぎオンラインで参加をするといったことも進めております。

また、新しく立てていただきました教育支援センター、ビリーブの方でもタブレット端末を活用して、子ども達の力をつけ進路実現につなげていくところです。

今活動の実態をお伝えしましたがけれども、今学習コンテンツで使っているのが、ロイロノートという自分の考えをそこで作ったり、友達と共有したりするような中身のものです。

ドリルパークというのが、基礎的な学びを高めていくためのドリルが進められるものです。

デジタル教科書は学習者用、指導者用が多く取り入れられておりますので、より、具体的に教科書をテレビの大型画面に映し出して理解を高めるようなもので使っております。ズームがオンラインでの健康観察や授業を行う時に使っているアプリになります。

教職員の研修ですとか、お困りの情報共有としては、ICT活用推進協議会を年間4回実施することで、やっております。

それから、2点目にICT活用をどう進めるとより効果的なのかということの研究推進する学校を4

校指定しております。

こちらには、ベネッセと委託をいたしまして専門業者によるサポートを受けながら、実際の授業の作り方を含めて研究をし、授業の様子をお伝えしたり、なかなか以前のように研究発表校に他の先生方が集うということが難しいですので、オンラインで情報発信しながら進めているところです。

活用の現状としましては、今年度大きく3点、ロイロノートをしっかりと使えるようになりましょう。ドリルパークを使って個別最適な学びをやってみましょう。ズームを主とした臨時休校の対応ができるように、先生方が誰でもズームのホストになる、ズームで授業ができることを目指しましょうということで進めてまいりました。2学期末で、3点とも100%の達成というふうに担当から聞いております。

初めは、見様見真似でドキドキの先生方も実際にズームでやってみるとスムーズにできたり、今では、あまり抵抗なく進めていただいております。

ドリルパークにつきましては、子ども達は自分の理解度ですとか習熟度、自分のペースで行っていただけますので、こちらやる気が持続していると聞いております。

3年生でも2年生の学習も出来ますし、4年生の学習を発展的にすることもできます。

そういったアプリを今導入しております。

2学期からは、デジタル教科書の効果的な活用ということで、こちら研究を進めているところでございます。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。問題点、または、方法も含めて、大嶽さん意見をお願いします。

○委員 大嶽 由美子

タブレット端末を全部の先生と生徒に持たせるというのは何年か前から教育委員会が説明に来たということで、その成果が本当に出ているんだな、ということで感心しています。

私たちはついていけなくて、子どもたちは、すごく、ICT、機械を使いこなして素晴らしい成果が出ているんだなということで、教職員の心配もしていましたけれども研修を積み重ねていって成果

が出ていていると思います。

今のコロナの時期にいざというときに ICT が使えるということは本当にありがたいと思います。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

○委員 宮崎 みゆき

初めはトラブルや心配もあったんですけども普通に使いこなしていると聞いてすごいなと思いました。

○委員 高井 郁郎

数年前まで、2018年時点では、GIGA、ICTを教育に活用する国は、日本は最下位でしたらしいですけども、2021年、2、3年後には一人1台は100%できている。インフラ面では、全国横並びになっているが、これから内容をいかに積極的に前向きにとらえていくかという事で教職員一人一人の技術の向上が大事ではないか、と思います。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

教育委員会でしっかり進めていただきたいと思っています

それでは、5番目の「学校施設の長寿命化について」事務局から、説明をお願いします。

○教育総務課長 植田 克己

それでは、学校施設の長寿命化について、ご説明させていただきます。

資料については、13ページをご覧ください。

学校施設の長寿命化につきましては、平成30年に策定しました「豊後高田市学校施設等長寿命化計画」に基づきまして、施設の健全度、重要度を点数化し、優先度をつけております。

13ページに記載させていただいているものが、その優先度を記載したものでございます。

左上の少し赤く濃くなっている部分です。そこが一番優先度が高い、というような状況になっております。

14ページにA3横開きの表をつけておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

こちらの表題のところに、劣化状況評価という欄が、ちょっと茶色に白抜きの欄があると思うんですけども、その中で、茶色で色付けしているD判定のところ、劣化の程度が大きくて、早急に対応が

必要な個所となっております。

その中で、令和元年度に高田小学校教室等の外壁、令和2年度に高田小学校管理棟・特別教室棟の外壁改修を既に実施しております。

本年度、令和3年度は、桂陽小学校の教室棟及び管理棟の外壁改修を行ったところでございます。

先ほど、市長のあいさつでもありましたように、本日議会の議決を頂きましたので、来年度、桂陽小学校の屋内運動場、体育館の大規模改修及び香々地中学校の屋上防水シートの改修を行う予定としておるところでございます。

ここの表題の黄色の色付け部分、建物基本情報の一番右の列を見ていただきたいのですが、築年数を記載しております。これが、平成30年に作成した計画ですのでそれから3年から4年経過しておりますので、高田小学校が昭和43年になっておりますけれども、それから更に3、4年伸びている状況でございます。全般的にどの学校も年数がたっている事がございまして、老朽化が年々少しずつ出てきております。

軽微なものはその都度改修させていただいておりますが、大規模なものは劣化状況の評価を基に、多額の費用が伴いますので年次計画を組んで順次実施して参りたいと考えているところでございます。

15ページ、16ページについては、それぞれ学校写真を添付しておりますので、具体的な劣化の状況を記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思いますが、先ほど申しましたように、やはり年次を組んで対処してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○市長 佐々木 敏夫

ありがとうございます。

この問題について、何かご意見はございませんか。

これについては、危険な状態が発見されればそれなりに早急に会対応する、また、時系列、時代を追いかけて危険度の高いものから対応をしていく対応をとっておりますので、保護者や皆様方で情報について頂ければ、ありがたいと思います。

いいでしょうか。

それでは、6番目の「いじめ防止及び不登校対応

について」事務局から、説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

それでは資料の 18、19 ページをご覧ください。幼稚園、小学校、中学校と子ども達が、成長していく中で、様々なことを経験しながら成長していきます。学校では、子どものよりよい成長を願いながら子どもの不安や困りを早く気付いてそこに対して支援をしていくと、その為に、保護者ですとか地域の方ですとか、関係者の方と情報を共有しながら一步一步進めていくという考えに基づいてやっております。

18 ページには、今年度 2 学期末の調査結果を記載しております。

まずは、いじめを早期に認知すること、ちょっとした子供の変化に気が付いて、それを全教職員で共有し、学校のいじめ対策委員会の中でいじめか否かの判断をして認知をしていくという流れを作っております。

一番上の表ですが、令和 3 年 2 学期末でいじめを認知した学校が小学校 10 校、中学校 5 校、認知していない学校が小学校 1 校、中学校 1 校です。

この認知をしなかったのは、担当の方が、繰り返し、どんな些細なこともなかったのかを聞いたのですが、それはないですというお答えで、どちらもかなりの小規模校です。認知件数ですが、小学校が 190 件、中学校が 77 件となっております。

2 学期末の状況といたしましては、解消したのは 110 件、取組中が 78 件、その他 2 というのは他市への転出でこの支援の手が届かなくなっている部分でその他に記載をしております。

中学校で解消が 42 件、取組中が 33 件、その他が 2 となっております。

皆様方もご存じのとおり、解消したというのが、しっかりと期間を設けて、一定の解消をみるという基準がありますので、それを踏まえて、この時点で解消が残っている部分にありますが、3 月末までには、解消できる部分はしっかりしていくという方向で進めております。

その下が、過去 5 年間のいじめの推移を示しております。

2020 年度から 2021 年度と若干数字は下がっておりますが、小学校、中学校の見逃さないという取り

組みは、継続して進めております。

それから過去 5 年間の不登校状況の推移です。2020 年、2021 年と若干減少傾向にあります。新規の不登校を生まないという、こちらも早期対応の取り組みで子ども達の安心できる学びの場というのを提供しつつあると、捉えております。

次年度に向けても、学年をまたぐ情報共有をしっかりとすることで、年度当初が大事と考えておりますので今その取り組みを進めつつあります。

19 ページには、来年度いじめ対策について案を載せておりますが、ここ数年継続して取り組んでいる内容であります。

まずは、すべての児童生徒にとって魅力ある学校、学級作りをすることが大事と、これが未然防止につながると考えています。

一昨年度から取り組んでおりますけれども、今年度は、特に人間関係づくりプログラムというコミュニケーション能力を高めたり、他者を知るための、ある意味ゲーム感覚で取り組めるプログラムです。

これをすべての学校で 10 分ないし 15 分の短時間のものを週 1 回は取り入れるということで、継続してやってきました。各学校から話を聞きますと学校のプログラムは、非常に子供にも好評で自分自身を振り返るきっかけになったり、友達とコミュニケーションをとる方法が分かったとか、仲良くなれたとか、そういった声が聞こえますので、更に次年度も取り組んでいきたいと思っております。

そして、子供たちの人間関係を、客観的にみる一つの方法として、ハイパーキューユーというテストのようなものがあります。

アンケート調査によって子供たちの学級満足度とか不安感といったものが見て取れるのですが、そういったものも見ながら、隠れている子供の不安を早期に発見するように努めてきています。

後は、学校行事は、コロナ禍で創意工夫が求められているのですが、子供たちが主体となった取り組みができるようにすることが、学校が楽しいと思える大切な要素ですので、引き続きやっていきたいと思っております。

2 番目の早期発見につきましては、アンケートはもちろんですけれども (2) に記載していますスクールカウンセラーですとか、スクールソーシャルワ

一カーですとか、特別支援教育支援員、来年度は、40人の配置をさせて頂くようにしていますが、そういった子供に近い存在の方、あるいは、専門的な視野をもっている方の情報を得ながら対応をしていきたいと思っています。

あったかハート1・2・3というのを書いておりますが、これは、子供が休んだことは、一つのSOSととらえて病気であろうと何であろうと1日目から電話をする。2日以降は、コロナ禍で許せば家庭訪問をするということをやっていくのが、あったかハート1・2・3という取り組みであります。

3番目の解決支援につきましては、先程来申しておりますが、いろんな人と連携をして、一人で判断をしない。一人で担任が抱え込んで解決しようとする。という組織的な取り組みを進めるように努めております。

それから、指導の経過の記録をきちんと取ることによって、次の学年にもつなげますし、何かあったときに前はどうだったのかなと振り返ることによって有効な支援ができるというふうに考えております。

更に、いじめと学校が認知したときには、いじめ発生報告書を教育委員会の方へ提出するように求めています。

今までは、発生したときだけ報告を受けていて、後は、聞き取りをしていたのですが、解消したといったときにも、同じように報告書を上げて頂いて、きちんと一つ一つのケースに対応するように改善をしているところです。

4点目は、市教育委員会と学校、それから関係機関との連携を更に強化していくという取り組みで、来年度も進めて参りたいと思っています。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい、それでは、ご意見をいただきたいと思いません。

○委員 高井 郁郎

全体的には課長が言われたことに賛成なんですけど、相反するように聞こえるかもしれませんが、深刻ないじめを受けたときに心の問題だと思えます。いじめられたこどもが極限の状態になったときに逃げ込める場所、心の中に逃げ込めるというか、

逃避できる世界を持つておくことが大事ではないかと思えます。

一例を挙げれば町田そのこさんという本屋大賞を受賞した作家さんがいますが、その方が高校時代いじめを受けて、その人は、自分の好きな世界を持っていて、氷室冴子さんの少女コミックですか、少女漫画を読むというのが、自分の楽しみ自分の世界を持っていた。それがあったからいじめを乗り越えられたと聞いたことがあります。自分の世界を持つておくというのが、いじめがあるなしに関わらず、大事なことではないかと思えます。

○委員 大嶽 由美子

課長が説明されたようにいじめ対策の過程はもちろんですけども、学校で取り組むときに教職員の気づきというか、それが大事になると思うんですけども、教職員の感性を養うのは、本当に難しいところもあるんですね。日々教育委員会が、いくら指示したり、指導してもなかなか難しいところがあると思えますが、是非、継続して折に触れて、やはり教職員の肩にかかっている部分が大きいので、伝えてほしいなと思えます。

もう一つは、いじめや不登校ではないのですが、最近心を痛めているのが、家庭での虐待ということで、虐待を感知するのに学校がやっているアンケートにその部分が入っていれば早く発見ができるので、コロナの中で家庭での虐待をすごく心を痛めています。市長さんもおそらく同じだと思うのですが、それを防ぐのも是非、取り組んでほしいなと思えます。

○市長 佐々木 敏夫

私自身の体験というか、私が学校へ行っているときに、これは、この問題につながらないかもしれないが、いじめ、そういうものを感じたときに、その人に近づかない。接触しない、2度とその人とつきあわなければいい。嫌われてもいい。という感覚で私はきました。

認められてとか思うとまた接点があって、いじめにつながる。皆が決めるかという疑問ですが、私は、そういうところに近づかない。そして、防御してきたという。一歩いやな思いをしたから、何がいやなのか、自分を直して認めてもらおうと思うと、どんどん近づいていくじゃないですか。そうしたら、

どんどん被害に遭うという、そういう思いもあったことをお伝えしておきます。

○教育長 河野 潔

市長の対処の仕方も一つの方法ではありますが、それを学校教育の中で具体的に進めていくかというのが、今、成長の過程ごとに人間関係プログラムでちゃんと教育課程を含んで、そしていろんな子供たちをしっかりと補う手だてを考えております。

例えば、居場所作りとか具体的にどうすれば、そういう場所がいろんなところで行けるのかとカリキュラムを組んで進めていくと言うことであります。今、はやり言葉になっていますが、ヤングケアラーや子供の虐待については、しっかりと子供たちをサポートするそういうことを考えております。よろしくをお願いします。

○市長 佐々木 敏夫

それでは、7番目の「園児・児童・生徒数の推移について」事務局から、説明をお願いします。

○学校教育課長 衛藤 恭子

資料の21ページをご覧ください。

“地域の活力は人”という理念、それから移住定住施策ですとか子育て支援等、それから教育にも力を入れておりまして、これから減少傾向にあるといわれている園児、児童、生徒数が本市におきましては、横ばい、あるいは増えているという状況がありますので、ここで今の現状をお伝えしておこうと資料を作っております。

一番上の表が、平成29年から令和4年の学年別、小学校1年生から中学校3年生間での数字と小中合わせた合計の数を一番右端に記載しております。

令は3年度は1,516人の児童生徒数ですが、次年度は、1,532人ということで16人の増となっております。

令和3年と令和4年を斜めに見て頂くと推移が分かると思うんですが、今の1年生が2年生になるときには7人増えて171人、今の6年生が、中学にあがるときには、154人、途中転入が今年度もかなり多くて、数字が増えてきております。特に他県からの転入も、最近多くてですね、他市からの転入もちろんですが、豊後高田市で暮らしたいですとか教育を受けたいという形での転入を多くきております。いろいろ、それに伴って取り組むべきことも

出てきていることもあるんですが、大変ありがたいことだなと思っています。

それから幼稚園の数が、教育委員会ではある程度把握できているので、下の表は効率幼稚園児の推移を載せております。

本年度は、7月から満3歳になったら幼稚園にということで、満3歳児の受け入れを始めました。

これが非常に好評で、希望が多くてですね、実はキラリいろ幼稚園では、7名を超えると、先生の数もあって、子供の安全面ですとか、教育環境からも、それを超えることはできないのですが、7名、夢いも13名という形で、すぐに誕生日がきたら埋まるというような状況になっております。

幼稚園教育と小学校教育をつなげることで教育プログラムの解消につなげたいと思っておりますし、ますます幼稚園の魅力も高めていきたいと思っております。市長からご提案頂いた英語を幼児期からと、今年度はコロナ禍で若干活動が縮小はされておりますが、シャワーのように英語を浴びる。の幼児教育からで次年度も進める計画をしております。

以上です。

○市長 佐々木 敏夫

はい。ありがとうございます。

参考資料、2枚の資料をつけておりますが、グラフの方ですね、これは、本件の若年女性20代から39歳の人口の増減率、全国がマイナス8.1、大分県全体がマイナス14.6、日出がマイナス8.9、中津がマイナス10.3、ずっとでてますが、豊後高田市では、2.0のプラスとなっています。

もう一枚の資料は、平成31年度が一番上のデータですが、出生が3月までで140人、令和2年が3月までで149人、そして令和3年が3月17日現在で159人、そういう意味では、子育て環境を整えることで出生率も上がってきたのかなと、それから移住者も子育て環境がよいから高田で子供を育てたいという。一定の成果が出てきたのかと思っております。

資料は以上です、では、今の件について意見等がありましたらお願いします

○委員 大嶽 由美子

真玉に住んでいるので、市長が取り組まれた真玉の土地を作って家を建ててもらおうということで、あ

そこの一角がどんどん家が建っているのを見ているので、とてもうれしく思っております。

今度、ちょっと幼稚園に関わりがあったんですけども、新しく入られるお母さん方とお話しすることがあったのですが、豊後高田はいろいろ恵まれているので、ここに変わることにしたんですよと、直接お聞きして、しっかりとした方で本当に心強く思いました。

本当にいい取り組みを進めていらっしゃると思います。

○委員 宮崎 みゆき

若い人が家を建てたいという夢が、本市で叶えられる。すばらしいことです。

5. 意見交換

○市長 佐々木 敏夫

少子高齢化、日本全国でこういう状況下にあります。それから社会では女性も戦力として働いております。そしてなおかつ、子供を産んでも、よくテレビで言っていますが、見てくれる人がおらないと、休んで子供を育てるのは、今の環境では非常に厳しいと。そういう問題点が多く見えますし、また、子供を産んでも経済的負担を負えないという。そういう問題点を考えると、地域で子育てをしようと、じゃあ子供を産んで保護者については、預かるものは、保育園から幼稚園、すべて、無料にすればいい、また、差別が少しでもなくなる要素になれば給食費も収めている人と収めてない人という問題が社会であるので、給食費も無料にすればいいと、医療費も高校まで無料にすればいいと、そういう意味で保護者負担の軽減と子供たちが仲良く学べる環境作り、幸いに豊後高田市は、教育の町づくりにしっかりと取り組んで頂いてたし、21世紀塾も今回は、高校までの21世紀塾、だいたい3,500から600万円かかるんですけど、一般財源はあまり使わなく対応ができる有利な補助を見つけ出したので、その対応をしております。

また、観光資源も移住してきた人が、海があり、山があり、非常に環境に恵まれていると思っておりますし、そうした観光資源も更に磨きをかけて、真玉の夕陽の問題も約4億弱かかるんですけども市の一般財源は、195万円しか使いません。

ほとんどゼロに近い、議会では大変な予算を使っ

ているといいますけれど、有利な補助を、そして地域を活性化させる。正直に言って、更に人口が減ると商店街、昭和のまちもつぶれます。更に延長すると国の方が財政難になると第2の市町村合併となる。そうすると高田が真玉、香々地で2町1市で合併していますが、真玉、香々地の意見は議委員の数でいくと少数派で意見が通りません。また社会は費用対効果を言いますから真玉に何をしてほしい。その道路が必要ですか？と何人1日に通っていますかといったら、これが、宇佐と高田が合併されると高田全体がその立場になる。

そうなると高田が過疎化が加速されると、それを防ぐために人口を直接増やすのと交流人口を増やして商店街の活性化、また、高田の人口が経ると何が起こるかということ、高田の皆様方の資産が目減りします。

出て行く方が多い、入ってくる方が少ない。社会源になると売り手よりも買い手の方が少ないんですよ、そこまで考えたときに、このままでいいはずがない。そういう意味でしっかりと、そして教育の、町づくりを高校まで含めてしっかりと、高田で教育を受けさせたい。高田で子供を育てたい。自然を満喫させたい。あらゆる形で、だから教育は、私が市長になる前にしっかりと教育のまちづくりをしっかりと取り組んで頂いてたので、これを絶やすことはできない。更に前にという、そういう意味でこの会議が皆さん方と、こうしてしっかりと取り組むきっかけになるのは、ありがたいなと思っております。

大綱の基本計画も含めて、また、1番2番の問題で、皆様方の意見を聞かせて頂ければ、こういうふうにしたらいよと。意外と事務局や一生懸命にやっている人は、問題点に気がつかないので、外野におる人の方が、こうした方がいいよというふうにご意見をお聞かせください。

○委員 大嶽 由美子

この構成で十分だと思っております。

○委員 高井 郁郎

全般的にはこの方向性で、お願いします。

○委員 宮崎 みゆき

私も、子供たちが楽しそうに通学したり、服装もおしゃれではないんですけどもきちっとして、挨拶

搦もしっかりしてくれるので、今の方針で間違いな
いと思います。

○市長 佐々木 敏夫

はい、ありがとうございます。

このメンバーの皆様には、この会議だけではなく
て、普段子供に接触したり、噂話でも結構ですが、
事務局の方にお伝えして頂ければ、また、新たに対
応ができるのかと思っております。

これでよろしいですか、教育長。

○教育長 河野 潔

委員さんの皆さんとは、月に最低1回は対面で会
議を開いております。

それに加えて、臨時でも対面でさせて頂いており
ますので、その折りにはご意見をいただきたいと思
います。

○市長 佐々木 敏夫

それでは、意見が出尽くしたようにありますので、
議長を降ろさせて頂きます。ご協力、ありがとうご
ざいます。

いろいろ貴重な意見をいただいておりますので、
まとめて今後に活かしていきたいと思っております。

○市総務課長 佐藤 之則

それでは、以上をもちまして令和3年度代1回豊
後高田市総合教育会議を終了します。大変どうもあ
りありがとうございました。

(16:25 終了)